

地域密着型サービス評価の自己評価票 グループホームあおなし

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームあおなし訓の理念に従い業務にあたっています。		
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職場の理念を毎日出勤している職員全員で唱和し、朝礼担当の職員は、今日1日の目標を掲げ職員との共有を行っています。		
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議を定期的で開催し、青梨子町前原自治会長に参加していただき、地域行事の情報提供を受ける等関係を深めています。		
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣住民の方に気軽に立ち寄っていただけていないと思います。	○	廃品回収やそば打ち講習会などに参加し、ご利用者・職員が出かけることにより、交流を図っています。
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	インフルエンザ流行期の為、そば打ち講習会等の地域行事に参加できていませんが、自治会長に声を掛けていただいていますので、時期を見て、今後は参加をしていく予定です。	○	平成21年は、そば打ち、サルビアの苗植え、リサイクル活動、廃品回収等参加しました。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	まずは地域の皆様にホームを知ってもらえるようにしていきたいと思います。	○	ご利用者・職員が新たな地域行事に参加することから、なかなか具体的な進展はしていませんが、将来的にはホームの機能を地域貢献に活かしていきたいです。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価で指摘など受けた事項を職員全員周知し業務の改善に活かしています。例えば、施設に関して、日中脱衣室の施設はしていないユニットを作りました。今後も継続していきます。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、GH大会で発表したケアの事例を報告したり、外部評価の結果からホームとしての取り組みなど、ご意見を頂いています。	○	施設のことなど指摘事項について、ご家族の立場としてどうお考えになっているか伺うことが出来ました。特に指摘のあった事項については、ご意見を頂く貴重な機会にさせていただきます。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームとして、前橋市主催の集団指導に参加しています。前橋市のホームに対する実地指導も、今年からサービスの質に関する確認が中心になっています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	当法人内の介護研修センターで、年1回以上定期的に権利擁護に関する研修を開催していますので、管理者・職員が参加しています。入居後に成年後見制度利用開始したケースでは、制度利用に際して、ご家族からの相談など承りました。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当法人内の介護研修センターで、年1回以上定期的に身体拘束・虐待防止に関する研修を開催していますので、管理者・職員が参加しています。ケアの方法を変更する際も、それが虐待に相当するかしないかをまず検討しています。	○	社会的に弱い立場の方のケアをする仕事なので、職員の間関係・精神状態をなどにも配慮し、漫然としたサービス提供等が見過ごされるようなことがないように、必要に応じて職員のユニット異動など行い職場環境作りをしています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>利用契約に関する締結・解除の際は、必ず利用者代理人のご家族およびご利用者に、ホームへ出向いていただき、管理者が直接、希望・要望・質問等を伺うことにしています。</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>ご利用者の意見・不満・苦情を直接受けた時は、必ず経過記録に残して、都度対応するようにしています。</p>	○	<p>まずはケアの方法を変更する・統一することから始まり、ご利用者・職員のユニット間異動、ご家族に協力を仰ぐ等、行なってきました。前橋市からの実地指導からの取り組み事項として、ユニット内に『ご意見箱』を設置する予定です。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>ご利用者の状態報告中心です。職員の異動については、毎月発行する『おたより』で報告しています。</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>ご家族には、年1回『施設サービスアンケート』への協力を依頼して、その結果を運営に反映させています。また、面会頻度の高いご家族ほど、直接率直なご意見を賜る機会も多く、ありがたく伺って都度改善しています。</p>	○	<p>館内の換気から、職員の接遇まで、ご意見を賜りました。すぐに改善できる事は、早い対応をしています。職員教育は、時間のかかることですが、首尾一貫して第三者の目線を大切にするという方針をとり、ご家族の意見を反映させています。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>会議や定時報告等、意見・提案を聞く機会を設けています。ご利用者本位の良い意見を聞けることも多いので、意見具申を支持・奨励している。また、言い出しにくい現状もあると思うので、対話を重ねる努力をしています。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>毎月1日までに職員の次回勤務表のリクエストを受け付けて、予め必要な勤務調整をしている。大幅な勤務時間の変更をしたことはありませんが、課題意識を持って、カンファレンスなど話し合いをしています。</p>	○	<p>最近では、同じご利用者の朝食前後の転倒から、あじさい棟夜勤者は朝食介助を2階から入ることにしたり、入居者の朝食摂取の自立支援の為に、トイレ掃除を早番職員から日勤職員に変更したり、という調整をしています。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>職員の定着率を向上させるよう、互いに学び合い向上できる職場作りに努めるとともに、やむを得ない事情がある場合でも、異動や離職の1ヶ月前には、新しい職員を迎えて業務引継ぎをして、ご利用者へのダメージが少なく済むよう配慮しています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当法人内の介護研修センター主催で、ビジネスマナーや介護技術の研修を開催し、管理者・職員を段階に応じて育成するための研修を実施しています。また外部の研修にも参加しています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県地域密着型サービス連絡協議会設立当時から加盟していて、研修や会議で地域の同業者との交流があります。本年度は、他事業所への見学研修を実施しました。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	必要に応じて直接または間接的に、話を聴いたり、指導・助言をしたり、ストレス軽減の工夫や環境づくりに取り組んでいます。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は管理者と相談して、職員個人のモチベーションやスキル向上の為に、誉めるべきところは誉めたり、責任のある仕事を与えたり、利用者の為に自分自身の為に向上心を持って働くことを奨励・支持をしています。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談の段階で、機会があれば利用者から、ご利用者がどうありたいかを伺い、その意向を十分に受け止める努力をしています。	○ ご利用者のご家族の意向で、入居前に面談できないこともあります。その時は「ご本人に、どうあってほしいか」「どうあることが、ご本人らしい状態か」を、ご家族に伺っています。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまでに、様々な機会に、ご家族の意向を確認させて頂いています。特に、ご本人にどうあってほしいか、ということは丁寧に聴き取りをして、ケアプランに活かしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時がサービスを受けたい時であることを十分に理解した上で、関連グループ内施設を紹介させていただくこともあります。また、GHに相談に来られる多くのケースは具体的にGHへの入居を希望されていることが多く、「市内の複数のGHへの見学・相談」を勧めることもあります。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談の段階から、サービスに馴染んでいただけるか、という不安は、ご利用者・ご家族ともに十分に考えられるため、体験入居のニーズがあるケースは、機会があれば短期利用を勧めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	多くの職員は、日々の生活の中でご利用者から教えられることが多く、一緒に過ごす中で、気持ちを分かち合い・助け合いながら過ごしています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	特に、ご利用者の状態変化やニーズによっては、ご家族の協力に頼って利用者を一緒に支えていただいています。	○	熱心なご家族ほど、ご利用者の力を信じて引き出すことに理解を示してくださり、「私から、よく言って聴かせます」等、積極的に関わってくださいます。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は利用者の立場に立った代弁者であるので、家族とのよい関係を継続できるように、普段の様子や利用者の思いを伝えるようにしています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の希望、ご家族の協力によりできていると思います。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い利用者同士は、席を近くにしたり、一緒にレクリエーションに誘うなどして、楽しい時間を過ごして頂いています。また、長年入居しているご利用者が、新しいご利用者に家事のやり方を教えるなど、微笑ましい場面もあります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	在宅復帰をしたご利用者の家族には、短期利用の空き情報を提供したり、退居されたご利用者の家族が、ボランティアとして訪問して下さったり、関係が継続している方もいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言語・非言語による表現から、ご利用者の意向を把握するよう努めています。ご利用者本位に検討する場合は、カンファレンス等複数の職員による意見交換をするようにしています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談の段階で、生活歴を聴き取りさせていただいて、言動の意味付けや動機付けに用いています。	○	もっと生活歴を掘り下げて検証して、ケアの向上に活かしていきたいので、ご家族の協力を得て、ご利用者一人一人の生活歴を再度埋める作業をしています。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	夕方になると落ち着かなくなる方、職員の手つなぎがないと眠れない方、寝付けしないとNCが増える方、独特なトイレサインのある方、2時間くらいかけて食事を召し上がる方等、その人らしさや出来ることの把握に努めています。	○	職員が、ご利用者一人一人の『その人らしさ』の把握を共通認識としていくために、その人らしくある為の目標設定の過程に、多くの職員が携わるような仕組みを作っていきたいと思います。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者とご家族の意向を伺い、カンファレンス等職員間での話し合いを経て、介護計画の作成をしています。	○	日常的なケアの工夫や気づきを記録に残し、介護計画に反映させているが、毎日の必要なケアから、更にご利用者・ご家族が望むケア・その人らしさが反映されたケアを行なうことが出来るような介護計画にしていきたいです。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護認定更新時期あるいは最長でも6ヶ月で定期的な介護計画を更新していますが、入退院等状態変化発生したときも、介護計画を更新しています。	○	更新する介護計画作成にあたり、現状に即した介護計画作成を心がけていますが、改めてご利用者・ご家族の意向を確認して、望むケアが反映されるような介護計画にしていきたいです。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録に職員のケアの実践・気づきを記入することを奨励して、情報交換・共有しています。またカンファレンスで検討して、介護計画の見直しに役立てています。	○	記録＝そのときに起こった事実を記載すること、に終始してしまう傾向は否めません。ご利用者の自立支援・処遇向上に繋がるような気づきや工夫をもっと記載していきたいです。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制や短期利用を活かして、柔軟な支援が出来るよう努めています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご利用者の意向や必要性に応じた地域資源との協働については、取り組みが不足していると思います。	○	ホームとして、この清里地区にある社会資源を理解することから始めていきたいと思っています。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状では、他のサービスを利用したいという利用者の意向がなく、またホームとして個々のご利用者に対して必要性を感じていません。ホーム内で完結するサービスに終始しています。	○	ご利用者のニーズを発掘するとともに、情報収集して、必要があれば柔軟な対応をしていきたいと思っています。まずは、法人内の居宅介護支援事業所のケアマネジャー、近隣の居宅介護支援事業所のケアマネジャーから情報収集していきたいと思っています。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状では、入居希望の問い合わせや、入居希望者のご家族との見学といった内容が中心です。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時に、往診を受けている協力医療期間がかかりつけ医になることを了承いただいたケースでは、ご本人・ご家族の希望を尊重して、必要に応じてかかりつけ医から直接・間接に指示・助言・説明を受け、適切な治療が受けられるよう支援しています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はご利用者の誇りやプライバシーに配慮した言動を心がけています。また、記録等の個人情報の取り扱いにも配慮しています。法人として、個人情報保護に関する研修の機会を設け、職員の意識を高めています。	○ 常に言葉遣いやプライバシー保護には気をつけていますが、ナースコール対応・日常の会話が慣れなれない言葉遣いになっていたり、プライバシーに配慮できていないこともあるので、職員には、第三者の目線を持ち続けるよう注意喚起しています。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	例えば、家事を手伝う・入浴後に着る服を決めるなど、日常の何気ない場面においても、希望や自己決定ができるように支援しています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はある程度決まっていますが、特に、ご利用者の身近な生活習慣は、職員の都合で決めてしまっても、長続きしなかったり、上手いかなくなったりするものだと考えています。例えば食習慣では、2時間近くかけてほぼ自力摂取される方、習慣的に朝食をあまり召し上がらない方など、可能な限り希望に添った支援をしています。	○ その日をどのように過ごしたいか、出来ていないと思います。個別に楽しめる趣味を大切にしていきたいと思います。また、職員の都合で、ご利用者を待たせてしまうことがあります。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	歯磨き・トイレの時に鏡を見て頂くようにして、ご自分で整髪をされる方もいます。また、「今日の洋服どれ着たらいい？」と相談されたら、職員も一緒に洋服を選んでいきます。月2回の訪問美容サービスでは、好みのサービス(カット、パーマ、カラー)を利用していただいています。	○ 外出行事等イベントだけでなく、日常にお化粧を楽しんでいただく機会を作っていききたいと思います。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に食事の盛り付け、洗い物などが役割になっているご利用者がいます。また、夕食調理・手作りおやつなどのレクリエーションを活用して、多くのご利用者に携わっていただく機会を設けています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご利用者一人一人の嗜好を把握していますので、苦手な食べ物などの時は、違うおかずを提供しています。現在のご利用者には、ご家族の希望により、お酒やタバコなどの嗜好品は提供している方はいません。	○ お好みドリンク、という週1回の喫茶店のようなサービスを過去に行っていました。小さなことですが、日常的な嗜好の意思決定過程を大切にする目的で、再開したいと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	職員は、オムツを着けることはご利用者にとって気持ちの悪いこと、という認識を持って、排泄などの失敗・成功を記録に残していくことで排泄サインを模索して、特有の習慣を見出していけるよう、職員間で検討をしています。なるべくオムツは使用しないように心がけています。	○	排泄に関しては、ある程度時間の目安をつけて誘導するだけでなく、ご利用者の排泄パターン・排泄サインを見逃さずに、誘導をしています。健康のためにも、精神衛生上も、非常に大切なことではありますが、その結果、排泄に関する処遇に時間を割いてしまう傾向にあると思います。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご利用者は週3～4回は入浴をしていただいています。長くご利用いただく過程で状態像も変化していて、一般浴槽では浴槽に入れないご利用者もいらっしゃるので、リフト浴のあるユニットに『お出かけ』していただくご利用者もいらっしゃいます。また、入浴準備できる方は、ご自分でいただいています。	○	ホームの日課で、日中の入浴しか行っていませんが、ご利用者は年代的に「昼風呂は贅沢」と好評です。ただ、今後は、個別のニーズがあれば、安全に配慮した上で、入浴時間等検討していきたいと思います。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	食後に休息を取る習慣のある方、疲れている様子がみられる方など、ご利用者の生活習慣や体調・体力に合わせて、日中は適度な休息を、夜間は安眠を促すように支援しています。		
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事をしたり、植物の世話をしたり、鼻歌を口ずさんだり、散歩したり、新聞を読んだり、習字をしたり、おしゃべりをしたり…そのご利用者らしい役割・楽しみごと・気晴らしを支援しています。ご利用者の大切な気分転換や、落ち着きを取り戻すきっかけにもなります。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、現金を所持しているご利用者はいません。ご利用者・ご家族の希望により、現金を所持していたご利用者も過去にいましたが、何かしてもらった『お礼』として配りたい、というお気持ちが強く、ご自分のために使う支援には至りませんでした。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家事を兼ねたものとして、レクリエーションとして、散歩程度の外出は日常的に行っています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ホームとして外出行事という形で、普段いけないうところへも出かけていました。ご家族と外出される際は、自家用車への乗降介助や、車椅子の貸し出し・オムツ類の着用など、必要に応じて支援しています。	○	現在、インフルエンザが流行期につき、ホームとしての集団での外出は控えています。時期を見て再開していきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に住んでいるご家族は、希望によりご利用者に電話を取り次ぎして、話をいただいています。ご利用者の電話や手紙の訴えから、サインを読み取り、ご面会の協力を仰ぐケースもあります。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	一緒に楽しく談話をしていただけるように、お茶を出したり、椅子を勧めています。また、面会の時に他のご利用者とおしゃべりやレクリエーションをくださったり、楽しい時間の提供をくださるご家族もいらっしゃいます。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束ゼロの手引き』は、職員全員が読んでいます。処遇上の問題が発生したときも、参考にしています。また、法人内の介護研修センター主催の身体拘束についての研修にも参加しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ご利用者をホーム内に閉じ込めておく目的ではないですが、玄関は常時施錠をしています。玄関の施錠については、外部評価においても毎回指摘を受けていますが、ご利用者の安全と自由を踏った上で、やむを得ない結論と位置付けています。	○	玄関以外の箇所は、施錠をしない時間を作る努力をしています。運営推進会議でも、議題に取り上げ、構成員の皆様の意見を賜っています。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	全てのご利用者には、決められた時間に巡視を行い所在確認をしています。歩行不安定なご利用者や、精神的に不安定な状態になったご利用者に対しては、さり気ない寄り添いと・見守りを強化しています。	○	ご利用者の安全を確保をする処遇を補助するものとして、離床センサーを設置しているご利用者もいます。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物のしまいなくしの多いご利用者は、大切に思うからちゃんとしまったが、結果としてどこにしまったのかわからなくなっているだけの状態であるという認識の下、ご本人の眼鏡・義歯の保管方法を見守りして、物の所在を確認しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	インシデントの発生や状態の変化をきっかけに、都度具体策を講じて都度再発防止に努めています。また、インシデントは誰にも起こりうることを認識して、会議や申し送りでも周知し、再発防止に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員全員がAEDの講習を受けて、急変・事故等の緊急時対応マニュアルも整備してあります。しかしながら、実際の事故発生時には、パニックに陥ることが予想されるので、迅速な対応が出来ない可能性が高いため、「決して一人で対応せずに応援を呼ぶ」ことを繰り返し申し送りしています。	○	日中・夜間を問わず、無理に一人で対応せずに応援を呼ぶ、という職員間の連携を浸透させるべく、何かあるときは申し送りしています。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自動通報装置を始めとする防災設備があります。年2回の防災訓練を実施しています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	例えば、椅子から立ち上がってすうホで転倒してしまうような歩行不安定なご利用者には、ご家族に座椅子を用意していただいたり、生活の中に溶け込んだ対応策を講じています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	熱があったり、食欲がなかったり、転倒したり、あざが出来ていたり、いつもと違う何かがあったときには、ご家族へ報告・相談して早い対応に努めています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に対する疑問を持っている職員が多かったので、職場内勉強会で取り上げたこともありました。最近では、法人内の研修センター主催で、薬に対する研修も行なっています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ご利用者のべんぴ対策として、水分の摂りにくい方には、好みの飲み物や飲みやすい容器を勧めたり、日常の中で体を動かす工夫をしたり、薬の副作用を疑ったりしています。ひどい便秘に対して、医師の指示のもと、内服薬・坐薬・浣腸を使用してコントロールしています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、全員のご利用者にはみがきをさせていただいています。自分で出来る方、見守りで出来る方、介助が必要な方、必要に応じた用品を使用しています。	○	口腔ケアの研修に職員が全員参加し、当ホームで、日本訪問歯科協会講師を招き、口腔ケアのセミナーを開催したこともありました。毎日、食事前にパタカラ体操を行い、誤嚥の防止に努めています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立と食材の配送は、グループ内企業に委託しています。食事が取り難い方には、個別に好きなごはんのおかずの提供、補食の使用、好みの飲み物の提供、食べやすい形態や盛り付けの工夫など、食事量確保に努めています。	○	ご利用者に食事を提供する前に必ず行なっている検食では、ミキサー食の検食も行い、味や食感など詳しく記載しておいしい食事作りを心がけています。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	『感染症対策マニュアル』を設置しています。最近では、医療連携をしている青梨子訪問看護ステーションの所長を講師に招き、MRSAについての勉強会を行いました。	○	インフルエンザの流行期でもあり、職員には、出勤したら、うがいと爪ブラシでの手洗いを励行して、感染症をホームに持ち込まないよう努めています。また、1日1回、館内の手すり・ドアノブをアルコール消毒しています。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	『食中毒防止マニュアル』に基づいた管理、給食担当会議での検討、賞味期限管理のダブルチェック、1日置き食材配送と保存方法の明記により、食の安全確保に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物そのものは重厚な造りですが、植木などの緑に囲まれていて、玄関にはひらがなで大きな表札が掲げてあります。目隠しの建仁寺垣や生垣も含めて、温かみのある外観です。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、大きな窓や吹き抜けがあり、明るく開放的な雰囲気です。居室の窓も大きく、方角によっては桜や楓が眺められ、季節感もあります。雑巾や箸などの生活用品も、ご利用者が使いやすいように手の届くところにおいてあります。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然に、好きな場所・居場所が決まっているご利用者も多く、会話を楽しんだり、趣味の編み物をしたり、テレビを見たり、共有空間でも、思い思いに過ごしていただいています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で愛用していた家具、ご家族の位牌や仏壇、家族の写真、家族の描いた絵画、趣味の作品、ぬいぐるみなど、ご利用者にとって愛着のある品物を持ち込んで生活されている方も多いです。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ご家族へのアンケート・ヘルパー実習生の感想から、館内の換気扇を稼働させることに配慮しています。冬は加湿器・夏は遮熱カーテンの活用により、温め過ぎない・冷やし過ぎない空調の温度設定にしています。四季を通じた快適な空調管理に努めています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室・廊下・トイレには、手すりがついています。居室内壁面の腰板を伝って歩行される方、ベッド柵につかまって起き上がる方など、自立支援を意識した設備・備品の使い方を工夫しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口に目印となる絵や写真を掲示して、そのご利用者がわかるための工夫をしています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋上では、洗濯物干しをしています。玄関先では椅子に座っておしゃべりをしたり、天候に左右されない気軽な外出にも活用しています。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご利用者一人一人が、その人らしく生活が出来る共同生活の場となるよう、温かい笑顔とふれあいを大切にした認知症ケアを心がけています。『お客様』が大好きなご利用者の笑顔のために、気軽に遊びに来ていただけるホーム作りのために、地域行事に積極的に参加していきたいと思えます。医療従事者が常駐していないグループホームではありますが、ご家族にグループホームでの対応の限界を説明して、主治医・訪問看護師からも積極的に情報提供した上で、ご家族の強い希望及び理解と協力が得られたケースに関しては、看取りもさせていただいています。長く快適にご利用いただけるグループホームであるよう努めています。